

1. 評報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501509
法人名	有限会社 二神
事業所名	グループホーム コロナ
所在地 (電話番号)	津市大里窪田1706-26 (電話) 059-231-7890
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年6月21日(木)

【情報提供票より】 (H19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(130,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名	
要介護1		4 名	要介護2		5 名	
要介護3		5 名	要介護4		4 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83.9 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二神クリニック 世古口消化器内科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、幹線道路より少し離れた閑静な地に2階建てで建てられている。緊急事態に配慮され、2階部分には屋外に非常用階段が設置されている。足、腰の不自由な利用者が早く安全に避難が出来るようにと滑り台も併設されている。夜勤者も2ユニットで2名配置され利用者の、安全と安心に努めている。医師である代表者は毎日、朝、夕の2回来訪され利用者の健康チェックを行っており、本人及び家族より厚い信頼を得ている。緊急避難訓練も年に2回実施されており、今後は夜間の訓練も計画されている。当ホームは利用者の健康保持と、安全を重視した運営を目指して、運営者、管理者、職員一同、日夜励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、改善課題として指摘された案件は一部のみ改善はされているが、未達成の部分がある。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の、重要なことは管理者、職員共十分に理解をされている。自己評価は管理者が作成されているが、出来れば全ての職員が参加して行われることが望まれる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在行われている運営推進会議の構成メンバーは、職員のみで行われている。出来れば利用者、家族等、地域住民、地域包括支援センター、行政の職員等幅広く参加を呼びかけ、活発な討議を行うことが望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、相談、苦情受付窓口も明記され体制も記載されており契約時に詳しく説明されている。又、行政の相談窓口も併記されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	子供の、見守りとか敬老会への参加はされているが、地域との連携が余りされていない。ホームのほうより地域に溶け込んで行かれるように期待したい。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「愛情を持って」を基本理念として、ホームの運営を進めてきた。	○	昨年の制度改正により、地域密着型サービスとしての役割が求められている。理念もその方向を目指した理念が求められており、今後つくり変えていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、理念を共有し、日々のケアに活かしている。利用者を自分の親のように思い愛情を持って接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供の見守りや、敬老の日の行事には出席しているが、地域との交流は、あまりされていない。	○	運営推進会議のメンバーに、地域関係者の参加を呼びかけ、会議でホームの現状について話され理解を得ながら積極的に地域に、溶け込んでいくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が作成してカンファレンスで話し合っている。管理者及び職員は、ケアサービスの質の向上には自己評価及び外部評価が大切なことは十分に理解されており、問題点が見つかった場合は提案し話し合っている。	○	前年度の評価でも触れられていたが、手摺の設置が技術的に難しいとの理由でされていないが、利用者の身体機能の低下を遅らせるためにも設置を検討されることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は毎月一回開催されている。メンバーは職員のみで構成されている。	○	現在は、職員だけのメンバーで行っているが、出来るだけ早い機会に地域住民や、行政関係者に呼びかけて構成メンバーの充実を図り、グループホームの理解を得られるように話し合われる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携は、あまりすすんでいない。	○	運営推進会議をきっかけにして、市の担当者との連携を強め話しやすい雰囲気づくりに努めることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の、日常の暮らしぶり健康状態は、コロナ通信で報告されており、金銭管理も2ヶ月に一度は出納報告に領収書を添えて報告をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情処理体制が記載されており、行政関係の窓口も併記され、契約時には詳しく説明をされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の、異動もなく離職者も少ない。職員が変わる場合は、利用者のダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の、採用時研修とか、フォローアップ研修の計画がたてられておらず、各職員の努力に委ねられている。	○	職員は、研修を受講する意欲も十分にあり、計画的に法人内外の研修を受けられるように機会を確保されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームとして、同業者との交流は良いことなどは理解されているが、積極的に交流はされていない。	○	同業者との、交流を深め相互訪問を通じ、サービスの質の向上を目指し取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急激な、環境の変化に馴染めずダメージを受けやすい利用者には、家族との話し合いで、訪問回数を増やしたり、電話の回数などを多くして、徐々に馴染んでいくようにされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、出来るだけ利用者との会話を多くするように努め、本人の苦しかったことや、楽しかったことなどを聞いたり、教えてもらったりして、感謝の気持ちを伝え合うようにされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、本人の話をよく聞き、表情、態度から一人ひとりの思いや、暮らし方の希望などの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回行われる、検討会議で話し合わせ、その結果を踏まえて計画作成担当者が作成し、各職員及び家族に見せ相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	何ら変化が無くても、3ヶ月に1度は見直しを行っている。利用者が急変した場合は、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師である代表者は、毎日朝夕の2回ホームを訪問し利用者の健康チェックを行っている。又、毎週金曜日には、母体のクリニックより訪問看護を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である代表者は、毎日2回ホームを訪問し利用者の健康チェックを行い、家族より絶大な信頼をえている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いを十分に行い、終末期のあり方について家族の意向を尊重して対応するように考えている。	○	家族の希望を聞いてはいるが、気持ちの変化もよくあるので都度家族の気持ちを確認し、気持ちが変わらないようであればターミナルケアも考えておられるようである。期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、プライバシーを損ねるような言葉掛けは、されていない。個人情報の取り扱いにも十分に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事等のパターンは、概ね決められているが、利用者の気分や体調によって拒否されることもあるので、本人の希望に添って時間を遅らせたり、日にちを変えたりして支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と、職員と一緒に食材の下ごしらえを行ったり、配膳、後片づけをされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には、毎日でも支援をされている。嫌がる利用者があるので、週に3回は入浴するように誘導をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るだけ、残存機能を活かせるように、その人の能力にあった役割を考えて支援をしている。終わったら必ずねぎらいや、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添った支援がなされている。時々喫茶店へ出かけてコーヒーや、ケーキなどを楽しまれている。墓参りなどは家族の協力を得て出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵を掛けずに自由に出入りが出来るようにされていた。利用者が外に出て誰もいない居室には鍵が掛けられていた。(盗難等トラブル防止のため)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に2回実施されている。安全で無理のないようにしながら、避難時間の短縮を目指している。	○	日頃より、地域の人々との交流を深め、協力が得られるように働きかけることが望まれる。又、手順書などもつくり、即対応できるようにすると共にスタッフ全員の認識を高める方向で、検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量を記録している。食事量が減った場合は代表者である医師が、毎日2回ホームへ来られるので報告をして診てもらい対処している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、窓が少し開けられカーテンを通して爽やかな風が流れていた。食堂及び玄関には季節の花が生けられ居心地よく過ごせた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家庭から持ち込まれた小さな箆笥や、机が置かれ家族の写真などを飾り、本人が安心して暮らせるようされていた。		